

エルニーニョ現象発生時に現れやすい 1 月頃の天候の特徴

エルニーニョ現象発生時に現れやすい世界の天候の特徴は、以下の通りです（1979 年～2008 年の 30 年間のデータをもとにした統計調査による）。

気温は、西日本～インド南部、南アフリカ周辺、北米中部、ブラジル北部、オーストラリア西部で高温傾向が見られます。ロシア西部周辺で低温傾向が見られます（図 1 左）。

降水量は、米国北西部、南部周辺で多雨傾向が見られます。東シベリア南部～アラスカ西部、ベンガル湾周辺で少雨傾向が見られます（図 1 右）。

2010 年 1 月の天候は、米国北西部と南米東部の高温がエルニーニョ現象時の傾向と一致していました（図 1 に楕円で示しています）。

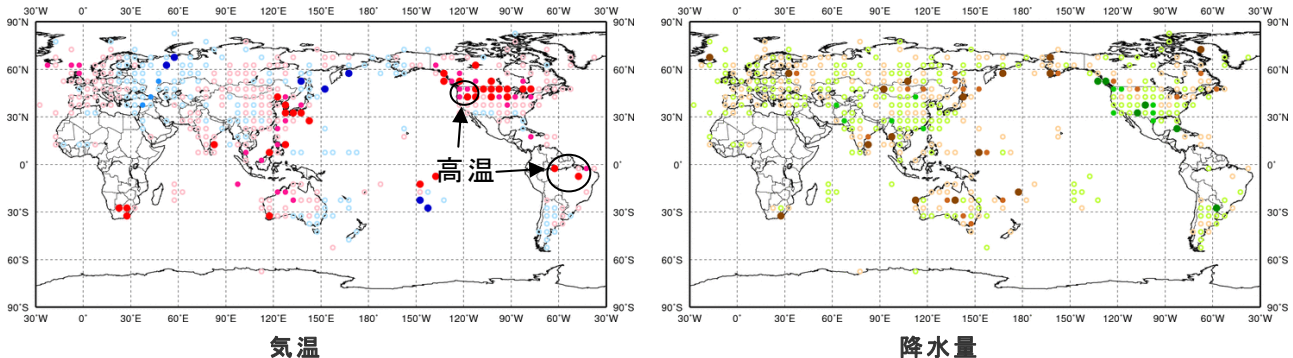


図 1 エルニーニョ現象発生時の 1 月頃（12 月～2 月の 3 か月平均）の天候の特徴

エルニーニョ現象発生年とエルニーニョ現象・ラニーニャ現象ともに発生していない年とで比較し、気温が高い領域を赤、低い領域を青、降水量が多い領域を緑、少ない領域を茶色で表します。統計的な信頼水準が 95%以上は大きい塗りつぶし、90%以上 95%未満は小さい塗りつぶし、90%未満は淡い丸で示しています。マークがない領域は比較を行うのに十分な資料がないことを表わします。なお、気温については長期的な変化傾向を除いています。